

老眼研究会モーニングセッション

共催：老眼研究会

座長：坪田一男（慶應大）

開会の言葉

坪田一男（慶應大）

1 老眼の診断基準についての討論

- ①イントロダクション
井手 武（南青山アイクリニック東京）
- ②ディスカッサント
大鹿哲郎（筑波大）
不二門尚（大阪大）
前田直之（大阪大）

2 マルチフォーカルレンズ導入から1年 ～どんな患者さんに良いか・悪いか～

- ①リズムム
ビッセン宮島弘子（東京歯大・水道橋）
- ②レストア
大木孝太郎（大木眼科）
- ③アクリ・リサ
濱田恒一（ハマダ眼科）
- ④テクニス・マルチ
根岸一乃（慶應大）
- ⑤SFXMVI
林 研（林眼科病院）

閉会の言葉

ビッセン宮島弘子（東京歯大・水道橋）

◆ 座長の言葉

眼内レンズ手術、レーザー角膜手術は正確な屈折手術としての地位を現在確立しました。このような背景の下、さらなるQUALITY OF VISIONの獲得(回復)のために老視に対する治療・回復法が盛んに議論され始めています。

このモーニングセッションでは老視における定義や治療概念・現在行われつつある方法について概論を行います。

その老視治療のひとつとして、日本でも多焦点眼内レンズが承認され、眼科医のみならず世間での認知度も大きく上がっています。しかし、適切と思われるレンズ選択、術前説明にもかかわらず満足度の低い患者様がおられることも否定できません。

そこで、多焦点レンズのエキスパートの先生方に論文などの発表でもまだ評価の分かれる点について壇上で議論していただくと同時に、出席の先生方にも参加していただくインタラクティブなセッションで明日からの診療に役立てていただきたいと思います。

MEMO